

## 2024 年度上野千鶴子基金助成金最終報告書（HP 掲載用）

1. 助成対象事業	SDGs の諸課題解決に向けた活動
2. 事業の区分	活動
3. 氏名/団体名	STAND Still
4. 事業名	STAND Still—性暴力サバイバービジュアルボイス写真展、トーク
5. 助成額	
6. 事業実施期間	2024/12～2025/11
7. リンク	<a href="https://standstill.jimdofree.com">https://standstill.jimdofree.com</a>

### 8. 事業の目的

当事者が自ら発信することは社会的ナラティブを転換し、地域課題を内側から捉える視点を生む。本企画は、性暴力サバイバー自身が撮影者となる「STAND Still」展を関東外で開催し、サバイバーの思いの可視化を通じて支援と犯罪防止を考える機会をつくとともに、福岡と関西のサバイバーのエンパワメントを促すことを目的とする。

### 9. 実施内容

横浜・東京で実施してきたワークショップで生まれた性暴力サバイバーが主体的に表現した作品 20 点を、オンライン参加者の居住地である福岡と大阪で展示した。会期中には公開ギャラリートークを行い、一般来場者に加え、被害者支援機関やメディア人、弁護士らにも参加を促すことで、声を上げにくい当事者の現状を共有し、支援の多様化の必要性を伝えた。

### 10. 事業の成果と自己評価

福岡では、博多ウィメンズカウンセリングと共催し、2024 年度作品 20 点を展示。延べ 123 名が来場し、市民から専門職まで幅広い層が訪れた。非公開ワークショップには 12 名、本番トークには 28 名が参加し、サバイバーと支援者が作品を通じて思いを共有し、支援の在り方を考える機会となった。

大阪では、オンライン参加を続けてきたサバイバーを中心に、地域初の展示とトーク、朗読会を実施。犯罪被害者特別週間にかけた 1 か月の展示期間中、当事者が写真を通して「語る」支援につながりにくい現状や表現によるエンパワメントが来場者の理解を深めた。トークでは、大阪在住の参加者が自身の作品を紹介。プロジェクト参加の経緯や感想も述べた。朗読会では、4 月から毎月オンラインで練習してきた朗読者が初めて対面で集い、多様なバックグラウンドを持つ人々が大きく映し出された写真の前で、その作品のキャプションを読んだ。ヘグムの演奏に手話を重ねた歌も。当事者の力とつながりを可視化する場となった。

## 11. 成果物

福岡市男女共同参画局推進センターアミカスギャラリーでの写真展とトークの様子(3枚)



大阪府とよなか男女共同参画局推進センターすてっぷ写真展、トーク、朗読会の様子(3枚)

